(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3746252号
(P3746252)
(45)発行日　平成18年2月15日(2006.2.15)　(24)登録日　平成17年12月2日(2005.12.2)

(51)Int.Cl.		F I	
B65D 83/00	(2006.01)	B65D 83/00	G
A45D 19/02	(2006.01)	A45D 19/02	B
B05C 17/005	(2006.01)	B05C 17/005	

請求項の数 23　(全 13 頁)

(21)出願番号　特願2002-192224(P2002-192224)
(22)出願日　平成14年7月1日(2002.7.1)
(65)公開番号　特開2003-146380(P2003-146380A)
(43)公開日　平成15年5月21日(2003.5.21)
審査請求日　平成14年7月1日(2002.7.1)
(31)優先権主張番号　0108657
(32)優先日　平成13年6月29日(2001.6.29)
(33)優先権主張国　フランス(FR)

前置審査

(73)特許権者　391023932
ロレアル
フランス国パリ，リュ　ロワイヤル　１４
(74)代理人　100109726
弁理士　園田　吉隆
(72)発明者　ヴァンサン　ドゥ　ラフォルカド
フランス国　７８１２０　ランブイエ，アレ　デ　ブルーエ　３

審査官　山口　直

最終頁に続く

(54)【発明の名称】別個に収容された２つの製品を同時に供給するための装置

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

少なくとも第一及び第二の可撓性のある壁面を有する収容部（４，５）に別個に収容された、少なくとも２つの製品を同時に供給するための装置（１）であって、

ｉ）当該２つの収容部（４，５）の各出口オリフィスが互いに隣接するように当該収容部を重畳して固定的に保持するための手段（６，６′）と、

ｉｉ）当該固定手段（６，６′）に対して移動可能であって、当該２つの収容部の中身が所定の比率でその各出口オリフィスから押し出されるように、前記固定手段と共に連結された当該２つの収容部を圧縮するのに適した手段（１５，１５′）を有し、

ｉｉｉ）第一の固定部分（６）と、第一の圧縮プレート（１５）であって、当該第一のプレートの平均面に対して横方向に当該第一の固定部分に対して移動する第一のプレート（１５）を有する第一の要素（２）と、

ｖｉ）第二の固定部分（６′）と、第二の圧縮プレート（１５′）であって、当該第二のプレートの平均面に対して横方向に当該第二の固定部分に対して移動する第二のプレート（１５′）を有する第二の要素（３）と、

ｖ）当該第一と第二の要素の間に上記第一及び第二の収容部（４、５）を重畳された状態で保持するための留め手段（１３、１３′、４３、４３′）であって、上記第一の収容部（４）の主面（３１）が、少なくとも部分的に、当該第一の圧縮プレート（１５）の内側面（２２）と向き合い、上記第一の収容部の当該第一の主面と反対側に位置する、上記第二の収容部（５）の主面（３１′）が、少なくとも部分的に、当該第二の圧縮プレート

（１５′）の内側面（２２′）と向きあっている留め手段と、
を有することを特徴とする装置（１）。
【請求項２】
上記の圧縮手段（１５、１５′）は、少なくとも２つのプレート（１５、１５′）からなり、各プレートは、上記装置の長手方向の軸Ｘにほぼ垂直な軸（１４、１４′）を中心に固定手段（６、６′）に対して旋回することを特徴とする請求項１に記載の装置。
【請求項３】
上記２つのプレート（１５、１５′）は対向するように配置され、各プレート（１５、１５′）は２つの縦方向の縁部（２０、２１、２０′、２１′）によって画定されており、上記第一のプレート（１５）の縦方向の縁部（２０、２１）から上記第二のプレート（１５′）の対応縁部（２０′、２１′）までの距離は、その縁部の全長に渡り、様々に変化させることができることを特徴とする請求項２に記載の装置（１）。
【請求項４】
各プレート（１５、１５′）は、上記出口オリフィス（３８、３８′）の近くに第一の端部（２４、２４′）と、当該第一の端部の反対側に第二の端部（２３、２３′）を有し、当該第一の端部（２４、２４′）は、上記関節軸（１４、１４′）に隣接していることを特徴とする請求項２又は３に記載の装置（１）。
【請求項５】
上記収容部（４、５）は、上記収容部（４、５）の先端部（３７、３７′）を切断するか、千切るか、又は破るかして開けることができることを特徴とする請求項１乃至４のいずれか１項に記載の装置（１）。
【請求項６】
ｉ）上記収容部（４、５）を圧縮するための手段（１５、１５′）は、上記２つの重畳された収容部（４、５）が配置された間に２つの圧縮プレート（１５、１５′）を有し、
ｉｉ）上記プレート（１５、１５′）は、上記２つの収容部（４、５）の間の境界面に位置する中央面の各側に対称的に配置されており、
ｉｉｉ）上記出口オリフィス（３８、３８′）の近くに位置する、上記プレートの第一の端部（２４、２４′）は、関節軸（１４、１４′）を介して上記固定手段（６、６′）に連結し、
ｉｖ）当該第一の端部（２４、２４′）の反対側に位置する、上記プレートの第二の端部（２３、２３′）が自由端であるため、上記プレートの第二の端部（２３、２３′）を合致させることにより上記収容部（４、５）を均等に圧縮可能であることを特徴とする請求項１乃至５のいずれか１項に記載の装置（１）。
【請求項７】
上記２つの圧縮プレート（１５、１５′）は、２つの同一成形品から得られることを特徴とする請求項６に記載の装置（１）。
【請求項８】
ほぼ水平な支持台の上に、出口オリフィス（３８、３８′）が当該支持台（Ｓ）からいくらか離れた状態で簡単に立たせることが可能なように構成されていることを特徴とする請求項１乃至７のいずれか１項に記載の装置（１）。
【請求項９】
上記支持台（Ｓ）の上にほぼ垂直に立たせることが可能なように構成されていることを特徴とする請求項８に記載の装置（１）。
【請求項１０】
上記収容部（４、５）が上記第一及び第二要素（２、３）の間にあるとき、上記収容部（４、５）の先端部（３７、３７′）は、特に切断するか、千切るか、又は破るかして開けることができるように、上記第一及び第二の固定手段（６、６′）を超えて延びていることを特徴とする請求項１ないし９のいずれか１項に記載の装置（１）。
【請求項１１】
組立てられたときに、上記第一及び第二の固定手段（６、６′）が装置の軸Ｘに沿った

方向を向き、２つの製品の局所的塗布を可能とする先端部（９、９′）を形成する、請求項１ないし１０のいずれか１項に記載の装置（１）。

【請求項１２】

１及び／又は複数の上記第一及び第二の固定部分（６、６′）は、上記先端部の少なくとも１部の長さに渡り、軸方向の隆起部（１０、１０′）を有し、上記それぞれの収容部は、一方で、上記出口オリフィス（３８、３８′）に開口し、他方で、リザーバ（３４、３４′）を形成するより幅の大きな部分に開口した出口ダクト（３６、３６′）を画定しており、当該１又は複数の軸方向の隆起部によって、上記収容部の出口オリフィス（３８、３８′）とそれらの各リザーバ（３４、３４′）とが、各出口ダクト（３６、３６′）を介して容易に連通できることを特徴とする請求項１１に記載の装置（１）。

【請求項１３】

組立てられた状態のとき、上記第一及び第二の圧縮プレート（１５、１５′）は、好適には装置の縦軸Ｘに対してほぼ直角を向く一体の蝶番である関節領域（１４、１４′）を中心にそれぞれ第一と第二の固定部分（６、６′）に対して旋回できることを特徴とする請求項１乃至１２のいずれか１項に記載の装置（１）。

【請求項１４】

上記第一と第二の要素の関節領域（１４，１４′）は、軸Ｘに対する垂線に沿って、２つの断面（１８、１９、１８′、１９′）の第１の端部（１６、１７、１６′、１７′）まで画定されており、当該断面は、第２端部が上記第一及び第二の要素（２、３）の長手方向の各縁部（２０、２１、２０′、２１′）に繋がるまで斜めに延びていることを特徴とする請求項１３に記載の装置（１）。

【請求項１５】

上記留め手段（１３、１３′、４３、４３′）によって、収容部（４、５）を可逆的に装置に組み入れることができる請求項１乃至１４のいずれか１項に記載の装置（１）。

【請求項１６】

上記留め手段（１３、１３′、４３、４３′）によって、収容部（４、５）を非可逆的に装置に組み入れることができる請求項１乃至１４のいずれか１項に記載の装置（１）。

【請求項１７】

上記留め手段は、ネジ、有刺システム又はリベットの形態をした少なくとも１つの要素（１３、１３′）であって、上記第一と第二の収容部（４、５）及び１又は複数の上記第一と第二の固定部分（６、６′）に形成されて相互に向きが一致するように配置させることができる固定穴（１２、１２′、４１、４２、４１′、４２′）を通過している要素を含むことを特徴とする請求項１５又は１６に記載の装置（１）。

【請求項１８】

少なくとも１つの留め要素（１３、１３′）が、１又は複数の上記第一及び第二の固定部分（６、６′）に固定されていることを特徴とする請求項１７に記載の装置（１）。

【請求項１９】

上記第一と第二の収容部（４、５）及び上記第一及び第二の固定部分（６、６′）は、それぞれ、装置の長手方向の軸Ｘの各側に１つずつ設けられた２つの肩部（７、８、７′、８′、３９、４０、３９′、４０′）を形成し、当該装置（１）は、軸Ｘのいずれかの側の、当該肩部のいずれかに、少なくとも１つの留め要素（１３、４３、１３′、４３′）を有する、請求項１７又は１８に記載の装置（１）。

【請求項２０】

少なくとも１つの留め要素（１３）が上記固定部分（６）に固定され、少なくとも１つの第二の留め要素（１３′）が上記固定部分（６′）に固定されていることを特徴とする請求項１９に記載の装置（１）。

【請求項２１】

少なくとも上記出口オリフィス（３８、３８′）を千切り、切断し又は破って開封する前に、上記第一及び第二の圧縮プレート（１５、１５′）は、上記出口オリフィス（３８、３８′）から遠ざかるように分岐し、その自由端（２３、２３′）は、第一及び第二の

収容部の底部（３２、３２´）より長く延びていることを特徴とする請求項１乃至２０のいずれか１項に記載の装置（１）。
【請求項２２】
上記の各収容部（４、５）が、それぞれ当該収容部の主面を画定する２枚のシート（３０、３１、３０´、３１´）と、底部を形成する端部のシート（３２、３２´）を有する請求項１乃至２１のいずれか１項に記載の装置（１）。
【請求項２３】
上記第一及び第二の収容部（４、５）の少なくとも１つが、当該収容部に熱溶接が可能なプラスチック及びアルミニウムの複合体から形成されていることを特徴とする請求項１乃至２２のいずれか１項に記載の装置（１）。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、可撓性のある壁面からなる収容部（小袋）状の容器に分離して収容された２つの製品を一緒に供給するための装置に関する。このような装置は、このようにして毛髪用組成物、特に染料と酸化剤を基本とする毛髪用組成物を得ることを視野に、製品の供給に特に適している。
【０００２】
【従来の技術と発明が解決しようとする課題】
ヘアカラーリングの分野では、特に、染料と酸化剤の即時混合が必要な酸化染色では、混合される２つの製品は、一方（染料）がチューブに、他方（酸化剤）がボトルに収容されるか、あるいは、各々がチューブに又はボトルに収容される。
【０００３】
より複雑なシステムでは、現在除々に使用されなくなっているが、いくらか自動的に、単なる回転又は圧縮動作を通じて、別個のボトルの収容された２つの製品を混合し、それを毛髪に塗布することができる。
【０００４】
これらのシステムには欠点が伴う。その中には、製造費用が高すぎるため、大規模流通網の要望と相容れないものがある。更に、予想されるほどの信頼性を必ずしも有するわけではない。あるいは、動作が複雑であったり、所定の比率で２つの製品を供給するのが困難なために得られる色彩が期待する結果と一致しなかったりする場合がある。
【０００５】
ＥＰ－Ａ－０４０７３２０号は、包装筒の中身を押し出すためのシステムであって、使用者によって操作される部分がＶ字クリップ形状に構成されており、関節部分として厚みが少ない領域が設けられているシステムが記載されている。その構成のため、そのようなシステムは、細身の収容部を空にするためにのみ適している。２つの収容部を一緒に空にするために使用する場合には、これらを並置、つまりほぼ同一平面上に配置させることしかできないかもしれない。その結果、それらの各出口オリフィスは、必然的に離間し、２つの製品を一緒に局所的に供給することが、不可能ではないとしても、非常に困難である。
【０００６】
ＣＨ－Ａ５－６９０２３４号には、複数の硬いプレートが長手方向に分節されることにより壁面の多角形断面が形成されているチューブ状のスリーブからなる可撓性のあるパックと収容装置が記載されている。当該明細書では、２つの可撓性のあるパックの中身を一緒に供給するためにそのような装置を使用することは想定されていない。更に、硬いプレートは、お互いに対してその長手方向に沿って分節されているので、それぞれの出口オリフィスが相互に隣接するようにそのようなパックを配置することは非常に困難であろう。最後に、両パックに同一の圧力を加えることは非常に達成しがたい。その結果、２つの製品を所定の割合で供給するのは容易ではない。
【０００７】
更に、上記に記載の２つの明細書によると、加圧手段それ自体によってチューブ又は収容

部を固定状態で保持するための適切な固定手段がない。
【０００８】
従って、本発明の目的の１つは、従来の装置を参照しながら上記に議論した問題を完全に又は部分的に解決するための装置を提供することである。
【０００９】
本発明は、特に、使用が容易でコスト的に有利な装置を提供することを目的とする。
【００１０】
本発明の他の目的は、分離収容された２つの製品を一緒に供給し、且つ製品のお互いに対する所定の比率でそのような供給を可能とする装置を提供することである。
【００１１】
本発明の更なる目的は、２つの製品が塗布部分で直接的に相互接触することを可能とすることによって、当該２つの製品を十分局所的に合わせて供給することができる装置を製造することを目的とする。
【００１２】
他の目的は、以下に記載の詳細な説明により明らかになるであろう。
【００１３】
【課題を解決するための手段】
本発明によると、上記の目的は、第一と第二の可撓性のある壁面からなる収容部に別個に収容された少なくとも２つの製品を同時に供給するための装置を作って達成され、当該装置は、
ｉ）当該２つの収容部の各出口オフィリスが互いに隣接するように当該収容部を重畳して固定的に保持するための手段と、
ｉｉ）当該固定手段に対して移動可能であって、当該２つの収容部の中身が所定の比率でその各出口オリフィスから押し出されるように当該２つの収容部を圧縮するのに適した手段を有する。
【００１４】
２つの製品を収容部状に収容することができるので、それらの収容に係るコストをかなり減少できる。特に製品の粘性と、収容部の各出口オリフィスのサイズに従って、圧縮手段を適切に構成することによって、２つの製品の供給比率を所望の比率に出来る限り近くすることができる。
【００１５】
好適には、圧縮手段は、少なくとも２つのプレートを有し、各プレートは、装置の長手方向の軸Ｘに対してほぼ垂直な軸を中心に、固定手段に対して分節している。このような構成により、比較的大きな容積の収容部、特にその最大厚さが１センチメーター以上のオーダーであってもよい収容部に当該装置を使用することができる。
【００１６】
好適には、２つのプレートは対向するように配置され、各プレートは２つの縦方向の縁部によって画定されている。当該第一のプレートの縦方向の縁部から第二のプレートの対応縁部までの距離は、縁部の全長に渡り、様々に変化させることができる。この特徴は、当該装置をより大きな収容力のある収容部に使用することを可能とする。この特徴はまた、２つの各収容部の中身を所定の比率で供給するために、当該両収容部を同一に圧縮することを可能とする。
【００１７】
各プレートは、出口オリフィス近隣に位置する第一の端部と、当該第一の端部と反対に位置する第二の端部を有し、当該第一の端部は、好適には、関節軸に隣接している。
【００１８】
好適には、収容部は、収容部の先端部を切断するか、千切るか、又は破るかして開けることができる。
【００１９】
好適には、上記プレートは、当該プレートに挟まれた２つの重畳した収容部の間の境界面

に位置する中央面の各側に、対称的に配置される。出口オリフィスの近くに位置する当該プレートの第一の端は、関節軸を介して固定手段と連結しており、当該第一の端の反対側にある当該プレートの第二の端は、自由端であるので、当該両プレートの第二の端同士を合致させようと近づけることによって、両収容部を同等に圧縮することができる。

【００２０】

製品の粘性が同一で、出口オリフィスの断面が同一である場合には、２つの収容部のスタックの各側に２つの同一プレートを対称的に保持するような有利な構造により、製品を１：１の比率で供給することができる。異なる比率が希望である場合には、２つの製品の相対的な粘性及び／又は収容部の出口オリフィスの相対的な断面積を修正すればよいだけである。

【００２１】

収容部の均等圧縮を保証する上記の対称性は、収容部が２つ以上である場合にも得ることができる。このために、最初の２つの収容部の間に、香水等の第三の収容部を配置することが可能である。このような第三の収容部は、ずっと小さな容積と、他の２つの収容部の出口オリフィスよりも小さい断面積を有するであろう。

【００２２】

有利には、２つのプレートは、特にポリプロピレンからなる、２つの同一成形品から得られる。

【００２３】

好適には、装置は、ほぼ水平な支持台の上に、出口オリフィスが当該支持台からいくらか離れた状態で、簡単に立たせることができるように構成されている。従って、装置がこのような支持台に立つ場合には、製品をうっかり流出させることはない。

【００２４】

好ましくは、装置は、支持台の上にほぼ垂直に立たせることができるように構成される。そのような構成は、支脚として機能する圧縮プレートの自由端に装置が支持されて可能となる。

【００２５】

ある特定の実施態様によると、上記装置は、

ｉ）第一の固定部分と、第一の圧縮プレートであって、当該第一のプレートの平均面に対して横方向に当該第一の固定部分に対して移動する第一のプレートを有する第一の要素と、

ｉｉ）第二の固定部分と、第二の圧縮プレートであって、当該第二のプレートの平均面に対して横方向に当該第二の固定部分に対して移動する第二のプレートを有する第二の要素と、

ｉｉｉ）当該第一と第二の要素の間に上記第一及び第二の収容部を重畳させた状態で保持するための留め手段であって、上記第一の収容部の主面が、少なくとも部分的に、当該第一の圧縮プレートの内側面と向き合い、上記第一の収容部の当該第一の主面と反対側に位置する、上記第二の収容部の主面が、少なくとも部分的に、当該第二の圧縮プレートの内側面と向きあっている留め手段を有する。

【００２６】

好適には、収容部が上記第一と第二の要素の間にあるとき、当該収容部の先端部分は、破り、切断し、又は千切ることができるように、第一と第二の固定手段より先方に延びている。このように、収容部はそれが装置に配置されて初めて開封することが可能であるので、それを配置するまでの間にいずれかの製品が漏れ出すことを防止できる。

【００２７】

収容部は、その先端を手で千切って開封することができる。あるいは、はさみ等の道具を使用してもよい。

【００２８】

装置が組立てられたとき、上記の第一及び第二の固定部分によって、装置の軸Ｘに沿った方向を向き、両製品の局所的塗布を可能とする先端部が形成されてもよい。このように、

当該先端部から製品を並行して押し出すことができるので、製品は直接的に塗布部位で接触する。

【００２９】

１及び／又は複数の第一及び第二の固定部分は、先端部の少なくとも１部の長さに渡り、軸方向の隆起部を有する。それぞれの収容部は、一方で、出口オリフィスに開口し、他方で、リザーバを形成するより幅の大きな部分に開口した出口ダクトを画定しており、当該１又は複数の軸方向の隆起部によって、収容部の出口オリフィスと各リザーバとが各出口ダクトを介して容易に連通する。

【００３０】

装置が組立てられると、上記第一及び第二の圧縮プレートは、好適には装置の縦軸Ｘに対してほぼ直角を向く一体の蝶番である関節領域を中心に、それぞれ第一と第二の固定部分に対して旋回することができる。この特徴により、両収容部を均一に押圧できる。

【００３１】

上記第一と第二の要素の関節領域は、軸Ｘに対する垂線に沿って、２つの断面（当該断面は、上記第一及び第二の要素の長手方向の各縁部に繋がる、当該断面の第二の複数の端部まで斜めに延びている）の第一の複数の端部によって画定されている。

【００３２】

上記留め手段によって、収容部を可逆的に措置に組み込むことができる。その場合、ネジ留め又は可逆的なスナップ留めが利用できる。この場合、一度両収容部が供給されると、それを取り外すことができる。そして、措置を洗浄し、再利用のためにとっておくことができる。この場合、商業的な観点から、装置の他の部分とは独立して収容部を販売することが考えられる。

【００３３】

あるいは、上記留め手段によって、装置に非可逆的に収容部を組み込むことができる。その場合、接着、溶接、非可逆的スナップ留め又はリベットタイプのシステムが利用できる。

【００３４】

ある実施態様によると、留め手段は、特にネジ、有刺システム又はリベットの形態をした少なくとも１つの要素であって、上記第一と第二の収容部及び１又は複数の上記第一と第二の固定部分に形成されて相互に向きが一致するように配置することができる固定穴を通過している要素を含む。

【００３５】

好適には、上記少なくとも１つの留め手段は、１又は複数の第一及び第二の固定部分に取り付けられている。取り付けは、当該要素が取り付けられる固定部分と成形して得られてもよい。

【００３６】

特にスナップ留めによる場合、上記第一の固定部分の留め手段の一部分と、上記第二の固定部分によって直接的に形成された補完的部分とが連携して当該留めがなされてもよい。

【００３７】

あるいは、上記第一の固定部分の留め手段の一部分と、上記第二の固定部分とは別の部材、例えばナットとが連携して当該留めがなされてもよい。

【００３８】

更には、上記第一と第二の固定部分とは異なる２つの要素が連携して当該留めがなされてもよい（リベット、スクリュー／ナット等）。

【００３９】

有利な実施態様では、上記第一と第二の収容部及び上記第一及び第二の固定部分は、それぞれ、装置の長手方向の軸Ｘの各側に１つずつ設けられた２つの肩部を形成する。当該装置は、軸Ｘのそれぞれの側の、当該肩部のそれぞれに、少なくとも１つの留め手段を有する。

【００４０】

好適には、各固定部分には、少なくとも１つの留め要素が取り付けられている。従って、一方の固定部分の一つの肩に、少なくとも１つの第一の留め手段を具備させることが可能であって、他方の固定部分の同一の肩に、第一の留め手段と同一の少なくとも１つの第二の留め手段を具備させることが可能である。これによって、２つの固定部分をその内側面を対向させた状態で配置した場合に、当該肩のそれぞれに、少なくとも１つの留めを設けることができる。この配置の結果、装置は、２つの同一の成形品から得ることができる２つの要素を含むことが可能であるから、装置の構成要素の成形コストを軽減することができる。

【００４１】

少なくとも出口オリフィスを千切り、切断し又は破って開封する前に、上記第一及び第二の圧縮プレートは、出口オリフィスから遠ざかるように分岐し、その自由端は、第一及び第二の収容部の底部より先に延びている。これにより、上記に記載のように、装置を水平面上に直立させることができる。

【００４２】

各収容部は、その主面をそれぞれ画定する２枚のシートと、底部を形成する端部のシートを有してもよい。このような構成は、三角形の渦巻き(the vortex of the triangle)が出口オリフィス近傍にあるため、当該三角形の形態のポーチを均一的に開けることができる。このような構成によって、圧縮プレートを分岐させて配置でき、当該装置を安定して支持台上に直立させることができる。

【００４３】

上記第一及び第二の収容部の少なくとも１つは、当該収容部に熱溶接が可能なプラスチックとアルミニウムの複合体とから形成されてもよい。

【００４４】

本発明に係る装置は、特に、化粧組成物、特に毛髪用組成物を形成するために少なくとも２つの製品を同時に供給するために特に適している。

【００４５】

本発明は、上述した構成に加えて、添付図面を参照して記載された非限定的な実施形態について以下に説明する多数の他の構成からなる。

【００４６】

【発明の実施の形態】

図１、２、３、４及び５に記載の装置１は、２つの同一の収容部４と５を挟んで配置された２つの同一要素２と３を有し、例えば、当該収容部４には染料が含まれ、収容部５には酸化剤が含まれ、これらは全てヘアカラーリング用組成物を調合するために利用される。

【００４７】

要素２は、およそ平坦な形状に構成されている。それは、横肩によって細長部分９と接続している２つの肩部７と８を画定する固定部分６を有し、当該細長部分９は、軸方向にくり抜かれており、その自由端１１に中空の半円筒１０の開口部を多少なりとも画定している。

【００４８】

要素２の肩部７の１つには、穴１２が貫通している。当該要素２の長手方向の軸に対して対称的な他方の肩部８には、ネジ切り加工されたシャンク１３が、要素２の内側面２２から突き出ている。

【００４９】

中空の半円筒１０は、その自由端１１と反対の端部において、一体の蝶番１４を介してプレート１５の一端２４と接続している。一体の蝶番の長さは、要素２の長手方向の縁部２０、２１まで斜めに延びている２つの切断部１８と１９の端部１６と１７によって画定されている。

【００５０】

従って、要素２の長手方向の軸に対して垂直で、一体の蝶番１４によって画定されている軸を中心に、プレート１５は固定部分６に対して旋回することができる。

【００５１】
当該実施態様の装置は、要素２と同一の第二の要素３を有し、その内側面２２′は、要素２の内側面２２に対向するよう配置されている。本書の簡略化のため、要素３について再度記載しない。図では、要素２に使用されたのと同一の参照番号に「プライム」を付加して使用した。
【００５２】
上記装置は、第一の製品を含む第一の収容部４と、第一の製品とは異なる第二の製品を含む第二の収容部５を更に有する。
【００５３】
図２、３に詳細に図示されているように、収容部４の形状は、上記に記載した要素２及び３とほぼ同一である。収容部４は、当該収容部とするために熱溶接が可能な、熱可塑性プラスチック又はアルミニウムを基本とした複合体からなる２枚のシート３０、３１を重畳して形成されている。端部のシート３２は、同一の物質からなり、収容部４にいくらかボリュームを与えながらその底部を形成する。
【００５４】
シート３０、３１の周縁の溶接領域３３は、適切なリザーバを形成しているより広い部分３４を画定している。当該リザーバは、末端が先端部３７である出口流路３６とは、肩部３５によって離れている。当該部分３７を破ると、出口流路３６は、先端部３７と収容部４の当該先端部以外の部分が接続する辺りにある開口部３８を介して外部と通じる状態となる。
【００５５】
収容部４は、長手方向のそれぞれの側に、シート３０と３１が熱溶接された２つの肩部３９、４０を形成している。当該収容部の軸に対して対称的に配置された穴４１、４２は、それぞれ肩部３９と４０に形成されている。
【００５６】
収容部５は、収容部４と同一である。本書の簡略化のため、再度説明はしない。図では、収容部５の参照番号は、収容部４と同一のものに「プライム」が付加されている。
【００５７】
アセンブリを組立てるために、要素２と３及び収容部４と５は、分解図１に図示したように配置される。
【００５８】
このように、第一の収容部４が下方のプレートに配置され、ネジ切り加工されたシャンク１３を穴４１に挿入し、収容部の穴４２を要素２の肩部７に形成された穴１２と対向するように位置決めする。
【００５９】
収容部５についても同様である。
【００６０】
次に、要素３の内側面２２′が要素２の内側面２２に面するようにして、上記のようにして作られたスタックに要素３を引き寄せる。要素３のネジ切り加工されたシャンク１３′を、収容部５の穴４２′、収容部４の穴４２及び要素２の穴１２に通す。同様に、要素２のネジ切り加工されたシャンク１３を、収容部４の穴４１、収容部５の穴４１′及び要素３の穴１２′に通す。ナット４３、４３′を、ネジ切り加工されたシャンク１３、１３′のそれぞれに螺合させる。
【００６１】
上記のようにして形成されたアセンブリは図４に記載されている。その図では、長手方向の軸Ｘを有する装置１は、収容部４と５の底部３２、３２′より若干突き出ている、プレート１５、１５′の自由端２３、２３′に支持されている。要素２と３の２つの半円筒９と９′が相互に対向するように配置されることによって一緒に細長の先端部を画し、２つの製品を局所的に塗布することができる。
【００６２】

上記に記載の組立て後、本発明に係る装置を使用するための手順が図６－図８に記載されている。

【００６３】

図６においては、使用者は収容部４と５の先端要素３７と３７′を破り、隣接しあう出口オリフィス３８と３８′を自由にする。

【００６４】

次に、図７に図示したように、使用者は親指と人差し指の間で装置を保持し、装置の先端を、製品を塗布したい地点、例えば毛髪に寄せる。その時、使用者は、プレート１５と１５′を合致させるようにして押圧する。そうすると、収容部４と５に含まれている製品は、それらが合流する各出口オリフィス３８と３８′を通じて押し出される。製品は塗布される地点で直接混合される。

【００６５】

製品が全て空になると、プレート１５と１５′は、図８に記載のようにほぼ接触しあう。

【００６６】

使用者は、ナット４３と４３′を外してから収容部４と５を除去することができる。使用者は、要素２と３を洗浄し、それらを取っておき、装置１とは別に販売することができる新しい２つの収容部４と５とともに後に使用することができる。

【００６７】

上記の詳細な説明では、本発明の好適な実施形態について説明した。特許請求の範囲に記載した発明の精神を逸脱しないでこれらの実施形態に変更を施すことができることは明らかであろう。

【図面の簡単な説明】

【図１】　本発明に係る装置の第一の実施形態の分解図である。

【図２】　本発明に係る装置に使用することができる収容部の正面図と簡略化した側面図である。

【図３】　本発明に係る装置に使用することができる収容部の正面図と簡略化した側面図である。

【図４】　組立て後の図１に記載の装置が水平な作業面上に立つ図である。

【図５】　図４の装置の縦断面図である。

【図６】　図１ないし５に記載の装置の使用の様々な段階を示した図である。

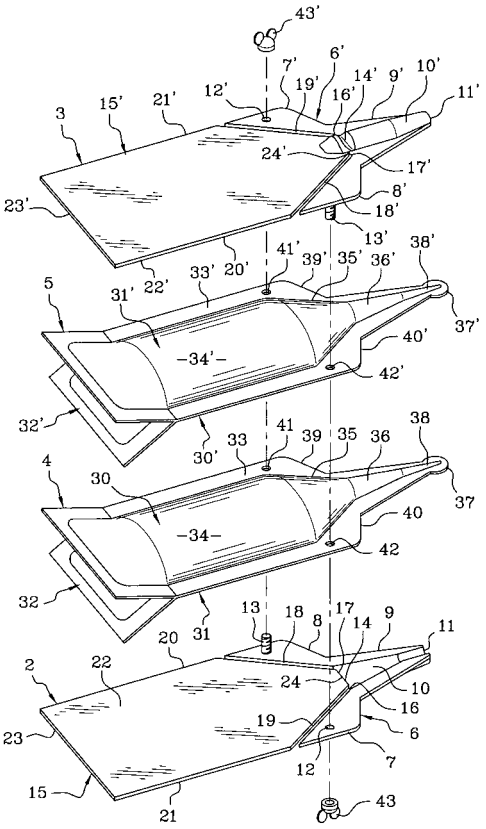
【図７】　図１ないし５に記載の装置の使用の様々な段階を示した図である。

【図８】　図１ないし５に記載の装置の使用の様々な段階を示した図である。

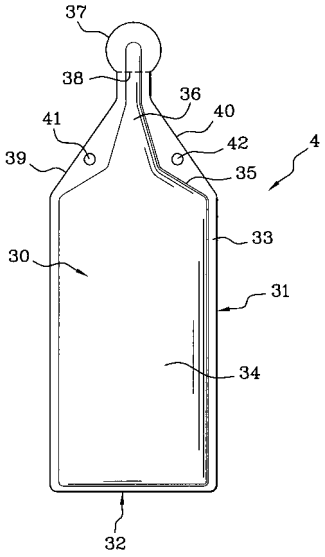
【符号の説明】

１	供給装置
２、３	要素
４、５	収容部
６、６′	固定部分
１４′	一体の蝶番
１５、１５′	プレート
３７	先端部
３８、３８′	出口オリフィス
４３′	ナット
Ｘ	長手方向の軸
Ｓ	支持台

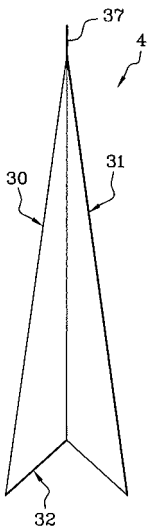
【図１】


43'
7'
6'
19'
16'
14'
9'
10'
11'
12'
15'
21'
3
24'
17'
8'
18'
23'
13'
41'
39'
35'
36'
38'
33'
20'
22'
31'
5
37'
40'
42'
-34'-
32'
30'
33
41
39
35
36
38
37
4
30
40
42
-34-
32
31
13
18
8
17
14
9
11
20
22
2
24
10
16
19
6
23
12
7
15
21
43

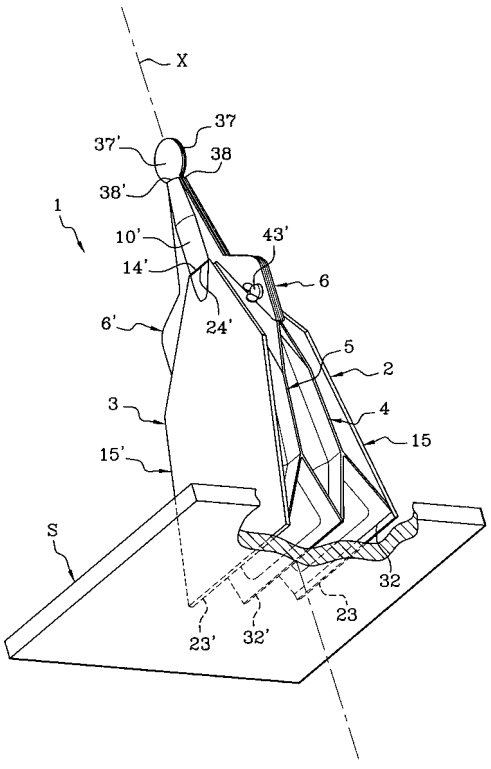
【図２】


37
38
36
40
41
42
4
39
35
33
30
31
34
32

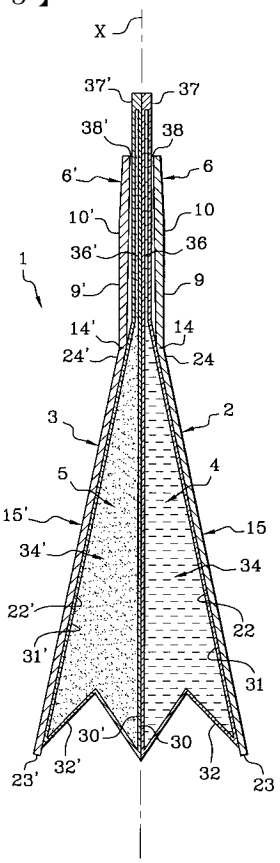
【図３】


37
4
30
31
32

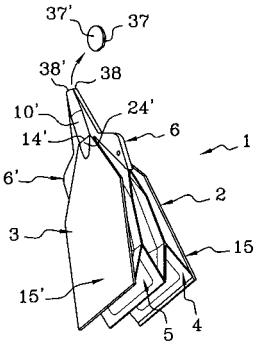
【図４】


X
37
37'
38
38'
1
10'
43'
14'
6
6'
24'
5
2
3
4
15
15'
S
32
23
23'
32'

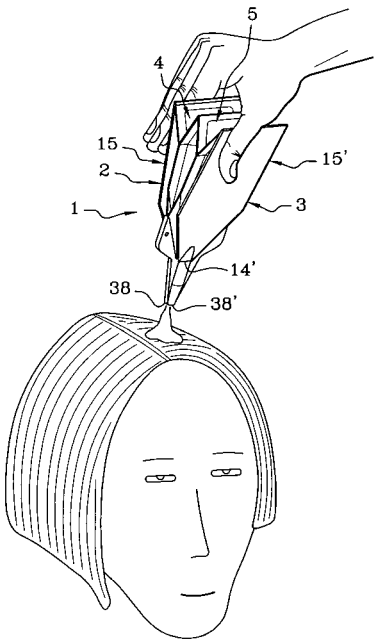
【図５】


X
37'
37
38'
38
6'
6
10'
10
36'
36
1
9'
9
14'
14
24'
24
3
2
5
4
15'
15
34'
34
22'
22
31'
31
30'
30
32'
32
23'
23

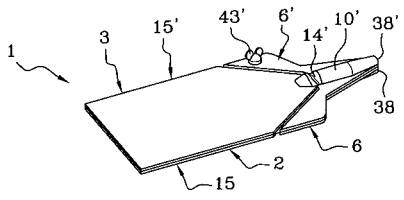
【図６】


37'
37
38'
38
10'
24'
14'
6
1
6'
2
3
15
15'
5
4

【図７】


5
4
15
2
1
15'
3
14'
38
38'

【図８】


1
3
15'
43'
6'
14'
10'
38'
38
6
2
15

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０９－２２６７８５（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－１０９１４５（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２０７９５２（ＪＰ，Ａ）
実公昭４３－００４５５７（ＪＰ，Ｙ１）
実開昭５７－１２９０５５（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65D 83/00、81/32